

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り、理念に沿う介護を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所に理念が掲げてあり、職員は理念の中身を知っているが、日々の中で管理者と職員が理念を共に意識しながら話し合う取り組みがされていない。	○	理念について、職員間で日々話し合いの機会を持ち、意識づけがなされることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のコンビニでは買物を通して、利用者と店員との顔なじみの関係はできているが、事業所自体は、地域住民の一員としての交流が消極的である。	○	事業所は地域住民の一員として、自治会等地域活動に参加し、地域の人々との関わりを持つための積極的な取り組みをしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を理解しており、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。		外部評価で見いだされた課題について、改善目標期間の設定など更なる具体的な改善計画と実施を期待したい。

宮崎県小林市 グループホーム和楽

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況やサービスの実際、評価の結果について報告や情報交換を行っている。		運営推進会議では、評価の取り組みや評価後の改善への取り組みをモニターしてもらうなど、更なる働きかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは直面している運営やサービスの課題解決について気軽に相談し、意見をもらうなど関係作りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行するホーム便りや家族の面会時に報告を行っている。遠方に居る家族に対しては、電話や手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関棚に意見箱を設けたり、家族等の来訪時には声かけをしている。	○	家族等が意見や不満、苦情を気軽に言い出せる機会や場作りの積極的な取り組みをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはなじみの職員によるケアを心がけている。	○	離職により職員が代わる場合、交代前後の利用者や家族への説明や対応の仕方、新しい職員への引き継ぎなど利用者へのダメージを防ぐ取り組みをお願いしたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が主である。限られた職員体制の中で実務の都合により、法人外での研修を受ける機会が少ない。研修報告は復命書により全職員共有している。	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保するため、年間計画の中で研修を位置づけていく工夫をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会の参加や訪問など同業者と交流する機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族に事業所を見学してもらったり、職員が家庭を訪問するなど、本人と家族に合った利用開始の調整を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活場面の中で、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、生活の技や生活文化の大事さを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。ある利用者の場合、本人の強い希望で週に2日は日中の3～4時間を自宅で過ごせるよう支援している。本人の希望に柔軟に応えようと努力している姿がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や朝のミーティング時に職員の意見を取り入れて介護計画を作成しているが、時間的に職員全員で話し合って作成する介護計画には至っていない。	○	利用者主体の暮らしを反映した介護計画となるようにアセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行える体制作りを望みたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた介護計画の見直しは行われているが、話し合いに基づく臨機応変な見直しがされていない。	○	利用者の変化に応じて、本人や家族、関係者等が話し合う機会を作り、実情に応じたケアにつながるように随時の介護計画の見直しを行う体制作りを望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一部の利用者ではあるが、シルバー人材センターと連携を図り、週に2日間（3～4時間程度／1日）自宅で過ごせるよう支援を行っている。本人の希望に柔軟に応えようと努力している姿がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医との連携を図り、適切な医療支援が受けられる体制がある。隣接する協力医療機関とは信頼ある関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針の共有が図られており、早い段階から本人や家族及び医師との話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者にはなじみのある名前呼びかけるなど、さりげない対応や声かけがうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の日課は決めてあるが、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、利用者の好みの献立を工夫し、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる雰囲気作りがされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、清拭やシャワー浴を取り入れて、毎日入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを作り出す支援を心掛けてはいるが、働きかけは消極的である。	○	利用者の経験や知恵を発揮できる場面作りの積極的な取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近隣のコンビニでの買物、ドライブなど利用者が外出を楽しめるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、利用者に対して鍵をかけることの弊害を理解はしているが、日中玄関には施錠がされている。	○	利用者が外に出たくなる場面や行き先などを把握し、近所の人にも理解を求め、見守りや声かけを行うなど、日中は鍵をかけずに安全に過ごせる工夫の積極的な取り組みをお願いしたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内での避難訓練は定期的実施されているが、地域住民の参加、協力を得た避難訓練は行っていない。	○	日ごろより地域住民や警察署等との連携を図りながら、支援体制作りをお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士のアドバイスをもらい、利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取量のチェック及び定期的に体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自然の採光や空気の流れがあり、廊下にはゆったりと腰掛けられるソファが置かれ、利用者が心地よく過ごせるよう配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者に居心地よく過ごしてもらいたいとの思いはあるものの、家族の協力が得られない等の理由から、殺風景な居室となっている。	○	利用者が自宅との違いによる不安やダメージを最小限に抑えるためにも、使い慣れたなじみのものをそばに置いておくなど、個別に応じた工夫を望みたい。

※  は、重点項目。